

平成29年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 標茶町立中茶安別小中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 088-2322
川上郡標茶町字中チャンベツ原野基線35番地2

E-mail office-nac@shibechea.ed.jp

Website なし

幼児児童生徒数 男子 17 名 女子 19 名 合計 36 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校教育目標の「大地に自分の足でしっかり立て」は、茶安別地域の大自然で豊かな人間性を育み、自分自身でしっかり自立心を培うことを意味している。本校ではESDを持続可能な教育の実践と捉え、地域の森林＝学校林を素材とした環境教育に重点を置いて取り組んでいる。ESDの実践をとおし、自然と共生する心を育み、『児童生徒が今、学校林等の地域の環境を守るためにできることは何か?』を追究し、実際に取り組んでいくことを目標とした。具体的には、学校林で五感を使ってふれあう活動【感じる・遊ぶ・探検する・作る】を中心に、自然への好奇心を育み、①ふるさと教育に係わる活動、②生活科に係わる学習、③小学校総合学習に係わる活動、④中学校総合学習に係わる活動 を行った。

① ふるさと教育に係わる活動

昭和13年に始まり、80年余りもの長い間続けてきた学校林活動は、代々、祖父母や父母から受け継がれてきた学校林の地域財産を自分達で守り、未来のふるさとに引き継ぐ意味で重要な活動である。地域の宝である学校林全体を、私達は『るんるんフォレスト』と名付け、親しみをもちながら接している。

② 生活科に係わる教育

五感による『感じる・遊ぶ』は、小学校1・2年の生活科における『野草観察・春を探しに行こう!』の単元で取り組んでいる。身近な地域の野草に直接ふれ、タブレットで撮影して掲示し、調べ学習・発表活動に生かしている。

③ 小学校の総合学習に係わる活動

3～6年生は、学校林に生息する樹木を調べ、きのこの実態観察やその生態を外部講師に説明してもらったり、ツリーイングという木登り体験・冬季にはスノートレッキングを履いて雪上歩行し、動物の生態調査等を行っている。

④ 中学校の総合学習に係わる活動

中学生は、別寒辺牛川の生物生態調査をしながらのカヌー体験学習・地域の茶安別川の水質調査・学校林の伐採後に行う植樹体験等、学校林からさらに視野を広げて、地域の環境保全の観点からE S D等の活動に取り組んでいる。



【① るんるんフォレスト入口看板】



【② タブレット撮影の野草観察学習】



【③ ツリーイングの木登り体験】



【④ 茶安別川上流での水質調査】

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他（自分達の住んでいる地域に誇りをもつふるさと教育）		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他（自由記入）	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間（小1・2年…生活科）	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他（自由記述）	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

① 春・秋の学校林活動…樹木の冬囲い＝小中学生がペットボトルで製作
② 夏の学校林活動…散策コースルートマップ＝小中学生が縦割班で作成
③ 釧路森林ふれあいセンター…樹木の種類と生育に関するパンフレット
④ 学校の各タブレット…樹木・鳥類・動植物等を撮影・記録化するため
⑤ 簡易水質PH測定キット…中学生が水質調査を行う時に使用するため

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は小中併置校として、小1から中3までの全学年で活動している。教育課程上では、小1・小2が生活科、小3～中3が総合的な学習の時間として、環境教育の年間指導計画に位置付けている。

全学年共通の指導内容として、本校ESDの理念＝【私達が今、地域の環境を守るためにできることは何か？】が浸透している。指導方法には、① 地域に生息している動植物に興味をもち、探究活動をとおり、自然への好奇心を育む。②地域の環境＝学校林等を守り育てる活動をとおり、自分達の手でより良い身近な環境を創り上げる 等があげられ、『50年後の中茶安別地域が、どうなっていてほしいか？』を子ども達が考え、未来予想図を描けるような工夫改善に努めたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、小1から中3までの9年間を見通した、継続的な活動に取り組んでいる。小中学生全員で、年3回で3時間ずつ、『春・夏・秋の学校林活動』に取り組み、縦割り班を構成し、中学生が小学生に教え継いでいく活動が根づいているため、活動が途切れることがなく継続している。また、小学校低学年・中、高学年・中学生と、その発達段階に応じた様々な活動に取り組み、学校林は『中茶安別緑の少年団』組織の活動にもなっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校では平成24年1月にユネスコスクール認定を受け、学校林活動を中心に取り組んできた。評価方法としては、活動毎に教員・小中学生が振り返りシートに反省内容・活動の感想等を記入し、担当者が集約して次の活動に生かしていた。

成果としては学校林活動により、自分達が生活している地域の素晴らしさを発見し、地域に誇りをもてるようになってきたことで、課題としては、小中9年間を見通した、各活動記録の整理・まとめ方を工夫する点である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESDの活動内容と成果等は、その都度学校だよりに掲載し、保護者をはじめ、本校の校区内全戸・標茶町教育委員会・町内の全小、中、高校に配付し、定期的に発信している。また、新聞社の取材を受け、活動の概要が新聞に掲載されることもある。今後は、本校のホームページをさらに効果的に活用し、幅広く発信しようと検討している。発信の効果としては環境教育実践校同士の連携が深まり、活動の紹介・交流が図れたことである。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校林活動においては、釧路地域森林ふれあいセンター・釧路総合振興局森林活動担当室・北海道きのこの会釧路事務局・知床山考舎ツリーイング協会・ネイパル厚岸・標茶町役場森林課・北海道開発局環境保全課等沢山の組織との関わりがあり、定期的に連絡を取り合い、活用している。水質調査・カヌー体験学習においては、釧路総合科学保健所・釧路市教育委員会社会教育課・ネイパル厚岸の各担当者に、活動の指導・インストラクターを依頼している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成27年の夏休み中に、当時の本校の中学生3名が、ロシア連邦・ハバロフスク州を6泊7日で訪問し、ロシアをはじめ、参加したユネスコスクール認定校の生徒と交流を図っていたが、現時点では特に、国内外のユネスコスクールとの交流はない。今後は釧路管内のユネスコスクールをはじめ、国内外のユネスコスクールとの交流を継続して図っていけるよう、将来的な活動等を見据えた、ネットワークの構築方法を検討していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

学校林活動等の環境教育を継続することで、小中学生だけではなく、教員や保護者・地域の方も、中茶安別地域の素晴らしさや良さに改めて気づき、地域に対する愛着がより深まり、誇りをもてるようになったことである。また、地域を愛する方とのふれあいが密になり、学校での『ふるさと教育』における外部講師への活用も、今後推進していきたい。

また、小中学生の、外部講師の方への感謝の気持ちが、今まで以上に強く感じられるようになってきた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・従来どおりの活動

- ① 小中全…春・夏・秋の学校林 【春＝樹木の雪よけの冬囲い外し・夏＝学校林散策マップの作成・冬＝鳥の巣箱清掃・樹木の冬囲い付け】
- ② 小1・2年…『春・秋を探しに行こう！＝動植物・樹木・鳥の観察』
- ③ 小3～6年…『5月＝学校周辺野草観察』・『7月＝散策道の樹木集め』
・『9月＝学校林でのキノコの収集→学校での観察学習』・
『9月＝木登り体験のツリーイング…ハンモック体験』・
『2月＝スノートレッキングを履いての雪上歩行体験』
- ④ 小学校全学年…『2月＝学校林のまとめ～生活科・総合学習発表会』
- ⑤ 中学校全学年…『8月＝中茶安別川上流における、生物・水質調査』・
『9月＝別寒辺牛川下流までの、カヌー体験学習』・
『12月＝学校林のまとめ～総合学習発表会』

・今年度新たに行う活動

- ★ PTA・地域業者・小中学生…【2月～8月予定＝学校林の伐採→間伐→植樹作業・約12年毎の作業・小中学生がどう関わるか、今後検討】